



Hondaのスポーツカーは もっと面白くなる

就職して初めて買ったS2000で実家に帰省したとき、得意げな私を見て、地元の友達は「どうしちゃったの?」とあっけにとられた様子でした。彼らにとって2ドアのオープンカーは、自分とはまったく関係の無い「異世界」のものに見えたのかもしれない。私たちの世代が「スポーツカー」に興味を示さなくなったということを経験するエピソードと言えると思います。

そんな空気もあってか、いつしか世の中のスポーツカーのラインアップはすっかり寂しくなっていました。私は小学生の頃にS2000がドリフトしながら画面に現れるCMを見て以来ずっとスポーツカーが好きで、その気持ちからHondaに入社したにもかかわらず……です。

そこに現れたのが、研究所50周年を記念した商品企画コンペでした。この機会を逃すまいと、私は自分が欲しいと思えるスポーツカーを提案しました。

どんどんハイスペックに、速く、しかし高価になっていったスポーツカーは、自分では乗りこなせない——だから、もっと等身大のスポーツカーが欲しい! そう思っているのは、私だけではない。「クルマ離れ」が取りざたされる私たち世代にも、そして今はそれを忘れてしまった「大人」の中にもたくさんいる、と考えたのです。